

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成26年7月18日
タイトル	「くわい」と七社用水
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

水土里ネット福山(福山市土地改良区)がある福山市は、広島県の東部に位置する中核市です。その玄関口であるJR西日本福山駅のホームから「福山城」を見ることができます。

福山城は1622年に築城され、日本百名城に選定されたこともあるお城で、別名を久松城(ひさまつじょう)、葦陽城(いようじょう)とも呼ばれていました。

福山市土地改良区では、福山市の南部に農業用水を安定的に確保・供給するため国営事業で施行された三川ダムの附帯工事により昭和36年に芦田川に「七社頭首工」が築造されました。

七社頭首工より取水された用水は、福山城下である福山市街地を流れています。芦田川左岸側を久松用水、右岸側を葦陽用水と呼んでおり、福山市旧市街地や南東部の隅々まで配水しています。

この七社用水は疎水百選にも選ばれたことがある用水で、受益地の大半が市街地ですが、生産量日本一の「くわい」をはじめ多くの農作物を生産しています。



七社頭首工



分水工

「くわい」は、葉の形が矢じりに似ていることから別名「勝ち草」といわれ、戦国武将の家紋の「沢瀉(おもだか)」としてよく用いられたそうで、福山城の初代城主である水野勝成の家紋にも用いられ、福山城の瓦にも見ることができます。

福山市で「くわい」の生産が活発になったのは約50年前からですが、約400年前の武士の時代から福山と「くわい」は縁があったんですね。



矢じりみたいな葉がいっぱい



沢の瀉れ(ながれ)に生えるといわれています

水土里ネット福山では、福山市の誇りである「くわい」を地域の子も達に知ってもらうため、「くわい」についての出前授業を行いました。これからも福山の農業振興のため取り組んでまいります。